



「なみだ」はしょっぱいのに、なぜ、目にしみにないの

目が、なみだの塩分えんぶんになれているから

なみだの中には、ほんの少しすこですが、塩分えんぶんがふくまれているため、しょっぱいのです。ではなぜ、目にしみにないのかというと、ふくまれている塩分えんぶんが、ひじょうに少ないことと、なみだは、生まれたときから、ずっと流れつづけているので、目が感じなくなっているためです。ですから、同じように塩分えんぶんをふくんでいる、海水の場合には、少しでも目に入ると、目にしんだり、痛いたかったりしますし、なみだ以外の物が入ると、やはり、しんだり痛いたかったりします。しかし、そんなときには、なみだが目の表面めひょうめんを流れて、それらを洗い流し、目をいつもの状態じょうたいにしてくれるのです。

なみだは、わたしたちの目めを守まもっている

なみだは、泣ないたときだけでなく、いつも目の表面めひょうめんをすすこずつ流れていて、ごみを取とったり、ばい菌きんが入ると殺ころしたりして、わたしたちの目めを守まもっているのです。

この、目の表面めひょうめんについているばい菌きんを殺ころす、薬くすりのようなものは、リゾチームとよばれるものです。（監修・保志 宏）

なみだは、上まぶたにある、涙腺なみだでつくられています

